Avidin-Biotin Immunoadsorption System を用いた CD34 陽性細胞の採取効率

矢野真吾 12 浅井治 12 加藤明德 12 渡辺浩 12 香取美津治 12 長峰守 12 矢萩裕 $^{-12}$ 牧信子 13 小林直 12 星順隆 3 田嶼尚子 2 倉石安庸 12

1)東京慈恵会医科大学附属病院血液・腫瘍内科

2)東京慈恵会医科大学内科学講座第3

3)東京慈恵会医科大学附属病院輸血部

(平成 10 年 11 月 20 日受付) (平成 11 年 4 月 15 日受理)

FEASIBILITY OF CD34-POSITIVE SELECTION USING THE AVIDIN-BIOTIN IMMUNOADSORPTION SYSTEM

Shingo Yano¹⁾²⁾, Osamu Asai¹⁾²⁾, Akinori Kato¹⁾²⁾, Hiroshi Watanabe¹⁾²⁾, Mituji Katori¹⁾², Mamoru Nagamine¹⁾²⁾, Yuichi Yahagi¹⁾²⁾, Nobuko Maki¹⁾³⁾, Tadashi Kobayashi¹⁾²⁾, Yasutaka Hoshi³⁾, Naoko Tajima²⁾ and Yasunobu Kuraishi¹⁾²⁾

¹⁾Department of Hematology/Oncology, Jikei University Hospital

²⁾Department of Internal Medicine (III), Jikei University School of Medicine

³⁾Department of Transfusion Medicine, Jikei University Hospital

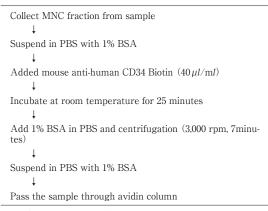
To investigate the feasibility of CD34-positive selection, we separated CD34 $^{+}$ cells from KG1a cells, fresh bone marrow samples (obtained from 2 ALL patients, 1 NHL, 1 breast cancer and 4 healthy volunteers) and frozen samples (3 ALL) by the avidin-biotin immunoadsorption using a CE-PRATE LC KITS $^{\circledast}$ (CellPro Inc.). We then detected minimal residual disease (MRD) from a separated Ph-positive ALL fresh sample by the PCR method. The yield of selected CD34 $^{+}$ cells were 78.9% (KG 1a cells), 45.5% (fresh bone marrow sample obtained from ALL, NHL and breast cancer), 9.3% (healthy volunteers) and 3.9% (frozen sample obtained from ALL). A sample of Ph ALL was able to eliminate MRD from the CD34 $^{+}$ fraction. We conclude that CD34-positive selection by the avidin-biotin immunoadsorption is useful in fresh samples but not from frozen samples and we demonstrated that this procedure may deplete tumor cells in a patient with ALL.

Key words: CD34 positive selection, minimal residual disease

緒 言

造血器悪性腫瘍や一部の固形癌に対する自家造血細胞移植併用の大量化学療法,放射線療法は,有効かつ比較的安全な治療法として幅広く施行されている.しかし同種骨髄移植と比べ再発率が高く,その原因の一つとして移植細胞液中に混入し

た腫瘍細胞,すなわち minimal residual disease (MRD) が考えられている¹. 移植細胞液から CD 34 抗原陽性細胞を選択回収 (CD34 positive selection) すれば,混入する腫瘍細胞が減少する可能性があり,近年臨床応用されている. 特に Baxter 社の immunomagnetic bead 法を用いた報告は数



MNC: mononuclear cell

Fig. 1 Method of separating CD34 $^+$ cells by the avidin-biotin immunoadsorption system using the CEP-RATE LC KIT $^\circledast$.

多く, その有効性が認められている.

今回われわれは比較的報告の少ない CellPro 社の CEPRATE LC KIT®を用いて、CD34 抗原陽性 細胞の採取効率について検討した。新鮮検体のほか凍結検体からも効率的に採取できるか、また MRD の除去効果についての考察も加えたので報告する。

対象および方法

1. CD34 陽性細胞の選択回収

1) CEPRATE LC KIT®の原理および方法

CEPRATE LC KIT®は、avidin-biotin immunoadsorption (ABIA) を用いて CD34 陽性細胞を分 離するものである. 1%BSA 加 phosphate buffered saline (PBS) で洗浄した mononuclear cell (MNC)を, biotinylated IgM 抗ヒト CD34 モノク ロナール抗体 (clone12.8; CellPro) (40µl/ml) と 混和し, 室温で25分間反応させた. 抗体に反応さ せる MNC の濃度は、上限 200×10⁶cells/ml (<5 ml) に調節した. さらに 1%BSA 加 PBS で洗浄 し,3000rpmで7分間遠沈後,avidin columnを通 過させた.CD34 陽性細胞を avidin-biotin 結合に より column 内に吸着させ、最初に column 内を通 過した CD34 陰性細胞 (unadsorbed cell) を採取, ついで PBS で洗浄しながら column を圧搾し、 CD34 陽性細胞 (adsorbed cell) を回収した (Fig. 1).

Table 1 Sample characteristics

Total numbers	12				
Type of samples					
Established cell line					
KG1a	1				
Fresh samples					
ALL	2				
NHL	1				
Breast ca.	1				
Healthy	4				
Frozen samples					
ALL	3				

ALL : acute lymphoblastic leukemia NHL : non-Hodgkin' s lymphoma

2) CEPRATE LC KIT®の有用性の検討

CD34 陽性のヒト白血病細胞株 KG1a(SRL より 供与) 1×107 個を, 健常人から採取した末梢血単 核球 9×10⁷ 個で 10 倍希釈し、洗浄後 CEPRATE LC KIT®を用いて adsorbed cell, unadsorbed cell に分離した.分離前後の各層をCD34抗体 (HPCA-2, clone 8G12; オーソ社)で反応させ, フ ローサイトメトリーで CD34 陽性率を測定した. さらに新鮮検体8検体(急性リンパ性白血病 (ALL) 2, 非ホジキンリンパ腫 (NHL) 1, 乳癌 1, 健 常人4), 凍結検体3検体(ALL3)を用いて, KG 1a と同様に adsorbed cell, unadsorbed cell に分 離, CD34 陽性率を測定した(Table 1). 新鮮検体 は全検体骨髄採取液, 凍結検体は骨髄採取液2検 体,末梢血幹細胞採取液1検体であった.骨髄液 から単核球を分離するには、Ficoll 比重遠心法 (1500rpm, 20分)を用いた. 凍結検体は細胞分離 前に37℃ 恒温槽で急速解凍後 ACD 液と混和し、 RPMI 1640 で 2 回洗浄した.

3) 細胞回収率

測定した adsorbed cell 中の CD34 陽性細胞数と pretreated cell 中の CD34 陽性細胞数の比から, CD34 陽性細胞回収率 (recovery rate of CD34⁺ cells)を算出した。また処理後の単核球数の和と pretreated cell 中の単核球数の比から, MNC 回収率 (recovery rate of MNC)も算出した(Table 2.3).

2. MRD の検出

1) reverse transcriptase polymerase chain re-

	n	Pretreated cell Ads		Adsorb	ed cell	Unadsorbed cell	
		MNC (×106)	CD34+ (%)	MNC (×106)	CD34+ (%)	MNC (×106)	CD34+ (%)
Established cell line							
KG1a	1	100.0	8.4	8.3	79.9		
Fresh samples							
CD34 ⁺ ALL	1	464.4	72.5	133.5	97.1	384.2	65.0
CD34- ALL	1	31.5	8.9	1.0	25.6	33.2	6.9
NHL	1	368.0	1.1	2.9	81.3	370.5	0.6
Breast ca.	1	19.8	0.6	0.8	7.8	16.9	0.4
Healthy	4	81.5*	6.0*	0.7*	61.9*	66.0*	3.0*
Frozen samples							
ALL	3	38.1*	20.8*	0.5*	52.3*	21.6*	9.7*

Table 2 Positive rate of CD34 cells and MNC

MNC : mononuclear cell

ALL : acute lymphoblastic leukemia NHL : non-Hodgkin' s lymphoma

*: median

Table 3 Recovery rate of CD34 cells and MNC

	Recovery rate of CD34+ cells (%)	Recovery rate of MNC(%)
Established cell line		
KG1a	78.9	
Fresh samples		
CD34 ⁺ ALL	38.5	111.5
CD34- AL	9.3	108.6
NHL	58.2	101.4
Breast ca.	52.5	89.4
Healthy	9.3*	89.4*
Frozen samples		
ALL	3.9*	58.8*

MNC: mononuclear cell ALL: acute lymphoblastic leukemia *:median NHL: non-Hodgkin's lymphoma Recovery rate of CD34+ cells (%): No. of CD34+ cells in adsorbed cells/No. of CD34+ cells in pretreated cells Recovery rate of MNC (%): (No. of MNC in adsorbed cells + No. of MNC in unadsorbed cells)/No. of MNC in pretreated cells

action (RT-PCR) 法の至適 cycle 数の検討

RT-PCR 法²の至適 cycle 数を決定するため Ph 陽性 ALL 検体からグアニジン法³により total RNA を抽出し,種々の cycle 数で bcr-abl 遺伝子を増幅した. 増幅産物は ethidium bromide で染色後,2%agarose gel に電気泳動し,densitometerで検出バンドを測定した. PCR に使用した primer は,諸家の報告^{4)~7)}を参考に,DNA synthesizer にて合成した. primer の sequence を以下に記す.

ALL 5' bcr primer; GTT GTC GTG TCC GAG GCC AC

ALL 3' abl primer; GCT CAA AGT CAG ATG CTA CT

2) 臨床検体における MRD の検出

Ph 陽性 CD34 抗原陰性 ALL 患者の第1 寛解期に採取した骨髄液1 検体 (新鮮検体) を adsorbed cell 層, unadsorbed cell 層に分離し、各層から total-RNA を抽出した. 上記で測定した至適 cycle 数で bcr-abl 遺伝子を増幅し、MRD の有無を検討した.

結 果

1. CD34 陽性細胞の選択回収

KG1a および臨床検体を用いた結果を Table 2, 3 に示す。KG1a では pretreated cell (MNC 100.0 ×10°)中の CD34 陽性率は 8.4%(理論値 10.0%), 処理後の adsorbed cell (MNC8.3×10°) 中の CD 34 陽性細胞率 (purity) は 79.9% であった。CD 34 陽性細胞の回収率は 78.9% で、高率に CD34 陽性細胞を選択回収できた。

患者から採取した新鮮検体 4 検体 (ALL 2, NHL 1, 乳癌 1) における adsorbed cell 中の purity は中央値 53.5 (7.8~97.1) %, CD34 陽性細胞の回収率は 45.5 (9.3~58.2)%, MNC の回収率は 105.1 (89.4~111.5) %であった. なお CD34[†]ALL 1 検体は, CD34 抗原陽性 ALL 症例の非寛解時に採取した検体であったため,処理前の CD34 陽性率は 72.5 %と高値を示した.

健常人から採取した新鮮検体 4 検体では, CD34 細胞の purity 61.9 (56.8~81.7)%, MNC の回収率

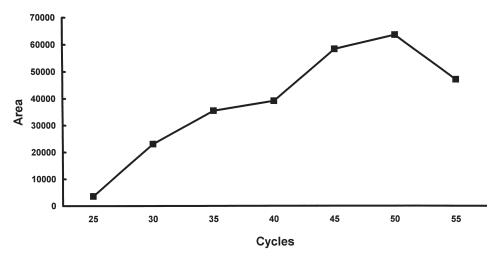


Fig. 2 Measurement of optimum no. of cycles for amplification of bcr-abl gene by PCR method. The bcr-abl gene obtained from Ph-positive ALL patients was amplified by various cycles and the products were subjected to 2% agarose gel. The product area was measured by densitometer. Over 50 cycles we observed degradation of DNA, and over 45 cycles non-specific bands were detected. Forty cycles was therefore selected.

89.4 (80.7~99.6) %と比べて, CD34 細胞の回収率は 9.3 (5.8~14.5) %と低値であった.

凍結検体 3 検体 (ALL 3) における CD34 細胞の purity は 52.3($27.6\sim58.2$)%であったが,CD34 陽性細胞の回収率および MNC の回収率は 3.9($2.5\sim15.4$)%,58.8($57.7\sim100.6$)%と低値を示した.また凍結,解凍処理による死細胞率を trypan blue exclusion procedure で調べたところ,解凍後の細胞の viability は 94.3+/-2.2% であった.

2. PCR 法における至適 cycle 数

PCR 法における至適 cycle 数を検討した (Fig. 2). 50cycles 以上で DNA の degradation が起こり感度が低下し、45cycles 以上で非特異的な band が検出された. 比較的直線的に上昇し、非特異的な band を認めなかった 40cycles を至適 cycle 数とした. また MRD の検出感度を dilution 法により検討したところ、10⁻⁴ レベルまで検出可能であった.

3. MRD の検出

第1寛解期に採取した CD34 抗原陰性, bcr-abl 遺伝子再構成を認めた ALL 例1 検体 (新鮮検体) に対して MRD の検出を試みた. pretreated cell

で認めた bcr-abl 遺伝子は, adsorbed cell 層では 消失していた (Fig. 3).

考 按

1. CD34 陽性細胞の選択回収

CEPRATE LC KIT®を用いて CD34 陽性細胞の選択回収を試みた。ABIA を用いた target cellの回収率は 45% 前後®, 特に CD34 陽性細胞の回収率は 35.0~73.2% と報告されている⁹¹⁰. CD34 陽性ヒト白血病細胞株 KG1a における CD34 陽性細胞の回収率は 78.9% と良好で、ABIA による CD34 陽性細胞の選択回収は可能と考えられた。

患者から採取した新鮮検体(ALL, NHL, 乳癌)でも, CD34 陽性細胞や MNC 細胞の回収率は 45.5%, 105.0%と比較的良好で, 患者新鮮検体からも CD34 陽性細胞の回収は可能と考えられた. しかし CD34 抗原陽性 ALL 1 検体では CD34 陽性細胞の回収率, MNC の回収率, 吸着層での purity とも良好であったが, 非吸着層の CD34 陽性細胞率も 65.0% と高値であった(Table 2, 3). これは処理前の CD34 陽性細胞数 (72.5%)に対して反応させた抗体量が不足していたためと考えられた.またこの検体を用いて MRD の検索を行ったとこ

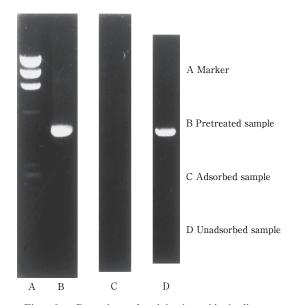


Fig. 3 Detection of minimal residual disease (MRD) from a separated Ph-positive ALL fresh sample by PCR method. Lane A shows marker, lane B showes result of detection of MRD from the pretreated sample, from the adsorbed sample (lane C) and from the unadsorbed sample (lane D). MRD was not detected in the adsorbed sample.

ろ回収層から腫瘍細胞が検出された (data not shown). 以上より CD34 抗原陽性の腫瘍系では効 率的な CD34 陽性細胞の選択回収は困難と考えら れた. また CD34 抗原陰性 ALL 1 検体では MNC の回収率は高値であったが、CD34 陽性細胞の回 収率は9.3%と低値を示した.しかし31.5×10⁶ の有核細胞から 0.3×10⁶ の CD34 陽性細胞を回収 できており(purity 25.6%), 2.1×10⁸/kg の骨髄有 核細胞を採取すれば移植に必要な 2.0×10⁶/kg の CD34 陽性細胞を集められ、本例は臨床応用可能 と考えられた. 乳癌検体では回収率は52.5%と比 較的良好であったものの吸着層での CD34 陽性率 は7.8% と低値であった. 吸着層での CD34 陽性 率が低いと非 CD34 細胞の混入, すなわち腫瘍細 胞の混入率が高くなり、purging 効果が十分に得 られない可能性がある. 以上より新鮮患者検体か ら効率的に CD34 陽性細胞を選択回収するには、 CD34 抗原陰性の腫瘍であること、吸着層の purity が高率であることが必要と考えられた.

健常人から採取した新鮮検体における MNC の 回収率 (中央値89.4%) やCD34 細胞の purity (61.9%) は比較的良好であったが, CD34 陽性細胞 の回収率は9.3%と低値であった.吸着層と非吸 着層の CD34 陽性細胞の和を処理前の CD34 陽性 細胞数で割ってみると 74.2 (54.5~92.1) %となり (新鮮患者検体では100(90.9~100)%),約1/4 の CD34 陽性細胞が loss されていたことになる. この loss の原因として, 1)細胞処理中に脱落もし くは死活した可能性2)カラム内に細胞が残存し た可能性などが考えられた. 同種骨髄移植におい て GvHD の発症を軽減する目的に、 健常人ドナー から採取した造血細胞から CD34 陽性細胞を選択 採取する試みがすでに臨床応用されている. ABIA を用いた健常人からの CD34 陽性細胞の選択回収 について、今後さらに検討を重ねたいと思う.

凍結検体における CD34 陽性細胞の回収率や MNC の回収率は 3.9%, 58.8% と低く, CD34 陽性 細胞を十分に回収できなかった. この原因は検体 処理中にフィブリン様物質(clumping)が析出さ れ、この物質がカラム内に付着し細胞の流出を阻 害したためと考えられた. clumping を予防するた め、凍結検体の採取時および解凍直後に ACD 液 を混和したが、clumping の析出を 100% 防ぐこと はできなかった. Alcorn¹⁰⁾らは, 凍結された末梢血 幹細胞採取液から CD34 陽性細胞を選択回収後増 幅し, 自家移植 source として用いたことを報告し ている. 彼らは解凍後の検体に trisodium citrate を混和し clumping の析出を予防した. しかしす べて防ぐことは不可能で、析出された clumping の量が多いと CD34 陽性細胞の回収率が低下した と報告している. 以上より凍結処理後の検体から 十分な CD34 陽性細胞を得るためには、clumping の析出を可能な限り予防すること, また析出され た clumping は慎重に除去し細胞の loss を最小限 に抑えることが重要な点と考えられた.

CD34 陽性細胞を選択回収するには今回行った ABIA の他に immunomagnetic bead 法がよく用いられている.免疫ビーズ法では回収率が 50% 前後, purity は約 90% 以上と報告されている¹¹⁾¹²⁾. 今回検討した ABIA 法による回収結果を bead 法

と比べてみると、新鮮患者検体での CD34 細胞の 回収率はほぼ同等であったが、吸着層での purity がかなり低値であった。諸家の報告でも ABIA 法による CD34 陽性細胞の purity は 60% 程度とされており¹³⁾、immunomagnetic bead 法と比べ低い可能性がある。一方今回 CEPRATE LC KITで使用した CD34 抗体 (clone 12.8; CellPro) とフローサイトメトリーで使用した CD34 抗体 (HPCA-2, clone 8G12; オーソ社)の間に特異性の相違があり、それが purity を下げた可能性も否定できない。今後 ABIA 法と bead 法による CD34 陽性細胞の採取効率を比較検討し、同時に抗 CD 34 抗体の特異性に関する検討も必要と思われた。

2. MRD の検出

CD34 陽性細胞の選択回収による腫瘍細胞の除去率は 4logs 程度¹⁴⁾といわれている. 今回われわれは第1 寛解期に採取した Ph 陽性 ALL 1 新鮮検体を使用し、選択回収後 RT-PCR 法による bcr-abl 遺伝子の検出を試みた. adsorbed cell から MRD が検出されず、この検体は選択回収を行うことにより purging 効果を得た可能性があった. しかし採取検体内の腫瘍細胞数が多いと adsorbed cell から MRD が検出される可能性が高くなる. 今後定量的手法を用いて purging 効果の限界について検討する必要があると考えられた.

文 献

- Brenner MK, et al.: Gene-marking to trace origin of relapse after autologous bone-marrow transplantation, Lancet, 341: 85—86, 1993.
- Kawasaki ES, et al.: Diagnosis of chronic myeloid and acute lymphocytic leukemias by detection of leukemia-specific mRNA sequences amplified in vitro, Proc Natl Acad Sci USA, 85: 5698—5702, 1988.
- Chomczynski P, Sacchi N: Single-step method of RNA isolation by acid guanidinium thiocyanatephenol-chloroform extraction, Anal Biochem, 162: 156—159, 1987.

- Fainstein E, et al.: A new fused transcript in Philadelphia chromosome positive acute lymphocytic leukemia, Nature, 330: 386—388, 1987.
- Clark SS, et al.: Expression of a distinctive bcrabl oncogene in Ph¹-positive acute lymphocytic leukemia (ALL), Science, 239: 775—777, 1988.
- Hermans A, et al.: Unique fusion of bcr and c-abl genes in Philadelphia chromosome positive acute lymphoblastic leukemia, Cell, 51: 33—40, 1987.
- Miyamura K, et al.: Detection of Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia by polymerase chain reaction: Possible eradication of minimal residual disease by marrow transplantation, Blood, 79: 1366—1370, 1992.
- 8) Berenson RJ, et al.: Positive selection of viable cell populations using avidin-biotin immunoad-sorption, J Immunol Methods, 91:11—19, 1986.
- Silvestri F, et al.: Positive selection of CD34⁺ cells: A short review of the immunoadsorption methods currently available for experimental and clinical use, J Hematother, 2: 473—481, 1993.
- 10) Alcorn MJ, et al.: CD34-positive cells isolated from cryopreserved peripheral-blood progenitor cells can be expanded ex vivo and used for transplantation with little or no toxicity, J Clin Oncol, 14: 1839—1847, 1996.
- 11) Abonour R, et al.: Autologous transplantation of mobilized peripheral blood CD34⁺ cells selected by immunomagnetic procedures in patients with multiple myeloma, Bone Marrow Transplant, 22:957—963, 1998.
- 12) Mapara MY, et al.: Combined positive/negative purging and transplantation of peripheral blood progenitor cell autografts in breast cancer patients: a pilot study, Exp Hematol, 27: 169—175, 1999.
- 13) Bensinger WI, et al.: Transplantation of allogeneic CD34⁺ peripheral blood stem cells in patients with advanced hematologic malignancy, Blood, 88: 4132—4138, 1996
- 14) Colter M, et al.: CD34⁺ progenitor cell selection: clinical transplantation, tumor cell purging, gene therapy, ex vivo expansion, and cord blood processing, J Hematother, 5: 179—184, 1996